

吉越 昭久 (立命館大学文学部教授)
片平 博文 (立命館大学文学部教授) 編

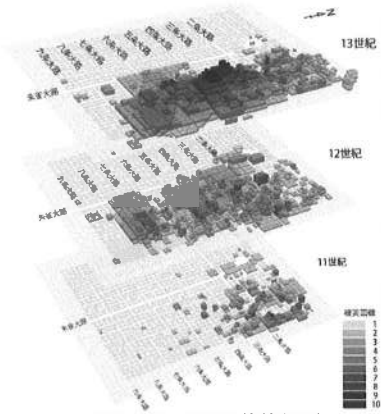
▼ A5判・三〇〇頁／定価二、四一五円 (税込)
【二〇二二年八月刊行予定】 ISBN978-4-7842-1643-7

京都の歴史災害

歴史災害を復原することは、過去の人々の災害への対応や考え方を
 知ることに共に、減災の知恵を学ぶことでもある。

本書では、歴史上、京都を襲ったさまざまな災害をとりあげ、
 地理情報システム(GIS)などによる災害範囲や規模の復原、
 特徴や被害発生の社会的背景の分析、また人々の取り組みな
 どを論じる。

地理学、歴史学、工学な
 ど多様な分野の研究者
 による、立命館大学G-
 COEプログラム「文化遺
 産の防災」プロジェクトの
 成果。



11～13世紀の火災発生件数(GIS)

【目次】

I 総論
 歴史災害の復原から明らかにされる
 減災の知恵 (吉越昭久)
 地理情報システムによる歴史災害の可
 視化 (塚本章宏・立命館大学衣笠総合研究
 機構ポストドクトラルフェロー)



新京極の大火
 『京都日出新聞』
 大正13年1月24日

II 水害
 近世における京都鴨川・桂川の水害 (高橋学・立命館大学文学部教授)
 一七世紀後半における賀茂川の洪水と堤防の建設 (片平博文)
 京都・鴨川の堤防建設にみる近世の治水観 (吉越昭久)

III 火災

近世京都の大火 (渡邊泰崇・ヤギエヴォオ大学学生)
 江戸時代の京都・公家町における災害と復興 (冷泉為人)
 幕末の戦乱と火災 (奈良勝司・立命館大学非常勤講師)
 大正期京都の火災の復原 (朝田健太)
 京都市における歴史的建築物の火災履歴の復元 (田中晔義・京都大学名誉教授)

IV 震災

京都周辺の活断層からみた地震の環境と長期予測 (岡田篤正・立命館大学グローバル・イノベーション研究機構教授)
 遺跡と史料からわかる地震災害 (寒川旭・産業技術総合研究所客員研究員)
 京都御所の地震殿と歴史災害 (川崎一朝・立命館大学歴史都市防災研究センター特任教授)

V 土砂災害

京都東山の土砂災害 (諏訪浩・立命館大学歴史都市防災研究センター客員研究員)
 近代の水害と土砂災害 (赤石直美・立命館大学文学部非常勤講師)

VI 気象災害・災害と社会

近世京都の重大火災と気象災害 (水越允治・三重大学名誉教授)
 近代の医療と防災 (鈴木栄樹・京都薬科大学薬学部教授)
 「迷子しるべ石」をめぐる (小林丈広・奈良大学文学部教授)

【コラム】

明治期の治水問題と現代 (山崎有恒・立命館大学文学部教授)
 安元三年の大火と風向 (片平博文)
 大地震でも清水の舞台は壊れない (伊津野和行・立命館大学理工学部教授)
 清水の舞台下斜面は「縁の下」の力持ち (深川良一・同右)
 歴史災害としての疫病と京都 (中谷友樹・立命館大学文学部教授)

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel. 075-751-1781 fax. 075-752-0723
 http://www.shibunkaku.co.jp E-mail: pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行: 思文閣出版 (京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	京都の歴史災害 本体2,300円(税別)	ISBN978-4-7842-1643-7
お名前		tel	
		e-mail	
ご住所	〒		
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) <input type="checkbox"/> 代引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い下さい)		
			書店番線印

※京都大地震 文政13年の直下型地震に学ぶ

三木晴男著

文政13年7月2日、京都を中心として震度6.4と思われる直下型地震が起った。建造物の倒壊、火災、流言と、公家・武士・町人を襲ったパニック。150年前の地震が現代に語りかける教訓を、現代における地震対策を念頭に京都大学地震予知観測地域センター長を勤めた地震学界の重鎮が語る震災ドキュメント。

▶A5判・334頁/定価2,940円

ISBN4-7842-0300-1

※京都 高瀬川 角倉了以・素庵の遺産

石田孝喜著

江戸時代初期に角倉了以・素庵父子によって開削され、京都の中心部と伏見港を結んだ10.5キロメートルの運河、高瀬川。伏見からは淀川を通じて大坂に通じ、さらに西国航路と結ぶ大動脈であった高瀬川の歴史をたどり、舟入や橋の変遷など、多方面から歴史と文化のすがたを描く。図版多数。

▶A5判・250頁/定価2,310円

ISBN4-7842-1253-1

※近代地方政治と水利土木

服部敬著

淀川・安威川・神崎川の水利構造の変遷と分析、沿岸住民の治水運動と中央・地方議会と政党の対応、近代化の意味と中央集権的近代国家の性格を地域史の視座から問う。【内容】近代国家の成立と水利慣行／水利組合の成立とその機能／淀川改修運動と地方政治の動向／日露戦後の農事改良政策と水利問題

▶A5判・400頁/定価6,930円

ISBN4-7842-0873-9

近代日本と地域振興 京都府の近代

高久嶺之介著

近代日本の地域社会の姿を、京都府下における、明治前期の京都官津間道の開鑿・明治前期～中期にかけての琵琶湖疏水と鴨川運河の開鑿・明治初期～昭和の敗戦直後までの天橋立の保存とその振興・明治初期～昭和の敗戦直後にかけての童仙房村の開拓、という特定のテーマを取り上げ、地域振興の視点から考察する。

▶A5判・364頁/定価6,825円

ISBN978-4-7842-1570-6

地域開発と村落景観の歴史的展開

原田信男編

関東平野西部の多摩川中流域をフィールドに、開発と景観という観点から、地球環境の変遷を問う人間の営みの歴史をたどる。豊富な考古遺跡・遺物にくわえ、村絵図・地方文書などの文献史料を手がかりとし、旧石器時代から前近代にわたって通史的に論じる。編者を中心に、20年におよぶ年月をかけた行われた共同研究の成果。

▶A5判・486頁/定価9,450円

ISBN978-4-7842-1555-3

大工頭中井家建築指図集 中井家所蔵本

谷直樹編

江戸幕府の京都大工頭を代々勤めてきた中井家に伝わる建築指図をまとめた。中井家伝来史料には、中井家の職務に対応して、城郭、武家屋敷、内裏、公家屋敷、寺院、神社、数寄屋、書院の指図があり、江戸時代の建築に関する詳細な情報を得ることができる。図版は517点を大判で収録し、解説を付した。

▶B4判・360頁/定価18,900円

ISBN4-7842-1148-9

※中世村落の景観と生活 関東平野東部を中心として

原田信男著

関東平野東部を中心に現地調査にもとづき、地形や伝承、中世・近世文書や地誌類などの豊富な資料、さらに地理学・考古学などの隣接諸科学も援用して、いくつかの典型的な中世村落の事例復元を試み、生活の諸相をふくめて総合的かつ具体的に考察し、近世への展開をも見通した大著。

▶A5判・640頁/定価11,340円

ISBN4-7842-1022-9

※源氏物語の地理

角田文衛・加藤重文編

これまで等閑視されてきた『源氏物語』の地理的考察において創始的な意義を持つ研究論文を集成し、作品中に象徴した地理的世界の把握を目指すアンソロジー。【執筆者】玉上琢彌/長谷章久/角田文衛/増田繁夫/加藤重文/大井重二郎/原田敦子/小山利彦/森本茂/池浩三/高橋和夫/奥村恒哉/福嶋昭治

▶A5判・436頁/定価6,510円

ISBN4-7842-1010-5

阪神・淡路大震災と歴史的建造物

加藤邦男編

平成7年1月17日未明、阪神淡路の内陸部を襲った直下型大地震が招いた建築物被害のうち歴史的建築物の被害状況を把握し、被災地区における復興、復元、修理補強の方策を探るのみならず、文化財建造物の将来にわたる保全、利活用における技術方策と環境の歴史的文化的価値の問題を再検討してさまざまな提言を示す。

▶B5判・280頁/定価8,190円

ISBN4-7842-0964-6

※京の鴨川と橋 その歴史と生活

門脇禎二・朝尾直弘編

歴史都市京都のシンボルの存在である鴨川とそこに架かる橋について、平安京以前から昭和まで、各時代の様子を具体的に明らかにし、人々の暮らしの中でどのような意味を持っていたかを探る。

【執筆者】門脇禎二/増淵徹/田端泰子/細川涼一/朝尾直弘/林久美子/横田冬彦

▶A5判・250頁/定価2,310円

ISBN4-7842-1082-2

幕末維新期の陵墓と社会

上田長生著

陵墓に政治的意味を付与し、祭祀を行おうとする政治権力（朝廷・山陵奉行）と在地社会の軋轢・葛藤が最も明確に現れた陵墓管理・祭祀に注目し、社会における天皇の位置づけや天皇認識を町・村社会の具体的なレベルから広範囲かつ実態的に描き出し、幕末の天皇・朝廷と社会の関係を解明する。

▶A5判・400頁/定価6,510円

ISBN978-4-7842-1604-8

北垣国道日記「塵海」

塵海研究会編

北垣国道(1836-1916)は、京都府知事に就任した明治14(1881)年から、北海道庁長官・拓殖務次官などを経て、京都に隠棲した明治34(1901)年までのさまざまな活動や多くの人々との交流を、自ら「塵海」と名付けた日記に書き残した。明治期地方官の実情を記し、中央政治史や地方自治・土木史・北海道史研究に寄与する資料。

▶A5判・650頁/定価10,290円

ISBN978-4-7842-1499-0

※近世の環境と開発

根岸茂夫・大友一雄・佐藤孝之・末岡照啓編

環境問題が議論される中でしばしば近世の環境や生活が理想的と論じられる。はたしてそれは事実なのか。江戸時代の現実に沿って、村落・河川・山野・鉱山を題材に、環境と開発の問題について改めて問い直す論文集。研究会を開催し各執筆者が研究発表と討論を重ねた成果。

▶A5判・366頁/定価7,875円

ISBN978-4-7842-1544-7

※日本近世地誌編纂史研究

白井哲哉著

思文閣史学叢書

日本近世の領土支配における文化行為の意義に着目し、地誌編纂を一つの政治的文化行為と位置づけ、その機能や実態について明かし、また日本の地方史・地域史研究に対する歴史的考察の観点から、さまざまな地誌の具体的な編纂活動をとりあげる。東アジア地域の歴史認識・地理認識を全体的に考察する可能性を拓く一書。

▶A5判・386頁/定価9,660円

ISBN4-7842-1180-2

日本古代都市史研究 古代王権の展開と変容

堀内明博著

長岡京の東宮と左京東院、平安京の条坊と市・町の形態、宅地と建物配置などの王朝都市から、白河・鳥羽殿、源氏・平氏の館などの中世前期都市まで、都城の展開と変容過程を時系列的に分析し、古代王権のあり方を考古学の成果を踏まえて解明した一書。永年、平安京などの都市遺跡発掘調査に携わった著者の研究成果。

▶B5判・514頁/定価15,750円

ISBN978-4-7842-1457-0

環琵琶湖地域論

西川幸治・村井康彦編

滋賀県立大学の研究スタッフが、琵琶湖をとりまく自然・経済・民俗・遺跡などをとりあげた成果。【内容】中世商業村落の生活と環境の整備/人と自然の関係史素描/江戸時代における琵琶湖の鳥獣について/琵琶湖湖底遺跡の研究/内湖のあった生活/溜池のある風景/近江のムラの文化を考える/マツリゴトの機能とその存在 他

▶A5判・340頁/定価7,350円

ISBN4-7842-1175-6

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。